

最優秀賞(三・四年の部)

どうして妹はまねをするのか

いわき市立植田小学校 三年 櫛田ひなの

わたしには六才と一才の妹がいます。わたしがやることをなんでもまねします。わたしがそくてんをすれば妹もぐるぐるとマネをします。わたしが絵をかけばおなじように色えんぴつで絵をかきます。はじめは、「なんでそんなにまねするの?」とイライラしました。でも、お母さんにきくと、妹はお姉ちゃんのこと大好きだからまねしたいんだよと言いました。大好きだからまねをする?なんだかふしぎでした。ある日、わたしが本を音読していると、妹もいっしょに絵本をもってきて、読めないのに「あーうー」と言いながらページをめくっていました。それを見てとてもかわいくてしかたがありませんでした。わたしは妹のまねについて調べたくありません。けいたいで「子供の発達」というものがでてきました。そこには、「小さい子は、お兄ちゃんやお姉ちゃんを見てまねをしながら、ことばや動きを学んでいく」と書いてありました。まねは、あそびのようでいて、じつはべんきょうであるものなんだと思いました。そう考えると、妹がまねをしようとする前の顔は、とてもしんけんでじっと見えます。新しいおもちゃであそぶ時のようなきらきらとした目で見つめてくるのです。まるで、見よう見まねで何かを手に入れようとしているみたいです。そういえば、一才の妹はさいきん、わたしやお母さん、お父さんの口ぐせをまねします。わたしが「タッチ」と言うと、妹もかわいい声で「タッチ」と言います。お母さんが「まんま食べる」と聞くと「まあんま」とうれしそうにくりかえします。まねをしてるうちに、ことばもだんだんと上手になってきました。妹たちが「どうしてわたしのまねをするのか」について調べてからまねをされてもイライラすることはなくなりました。むしろ、「こうやるんだよ」と教えると妹たちは、まねをしてできたときうれしそうにわらいます。そのえがおを見ると、わたしのまねをして少しずつできることがふえていくことに、とてもうれしくなります。

今では、妹たちがまねしてくれることが少しほこらしく思います。でも何だかせきにんもかんじます。ふりかえってみるとわたしも小さいころしんせきのお兄ちゃんやおばさんのまねがじょうずだったとお母さんに話を聞きました。妹たちにとって、わたしは手本であり、先生であり、そしてあそびなかまでもあります。だからこそ、これからはわたしも妹にまねしてもらえるようなりっぱなすがたを見せたいと思います。しゅくだいやおてつだいをがんばると、妹たちも「わたしも!」と喋っていっしょにやってくれるかもしれませぬ。妹といっしょにすすぐす毎日がこれからもっと楽しみになったのと、「どうして?」と思ったことは大切にして、すぐに調べ、たくさんのふしぎを見つけていきたいと思いました。